

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771400387		
法人名	加陽産業有限会社		
事業所名	グループホームかたばたの里 こはる		
所在地	石川県河北郡津幡町字潟端つ5番8		
自己評価作成日	R3年3月12日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do">https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人シナジースマイル
所在地	石川県金沢市千木町129番地
訪問調査日	令和3年4月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から入った田園の中に集落があり、グループ法人の2つのユニット(棟)と共に位置している。敷地の中央はゆったりしたスペースで家族や地域住民との交流の場として活用している。建物の周囲には遊歩道があり、季節の草花や野菜も栽培され、屋内外から目ににぎやかである。地域密着型サービスとしての理念を全職員で意見を出し合い、運営推進会議にも出しながら作り上げ、「人と人とのつながりや挨拶、気軽な声かけ、助け合い」を大切にすることを謳っている。利用者は一人での散歩、遅めの朝食、テレビ観賞、野菜の皮むき、居室での趣味、洗濯物たたみ等それぞれに好きなように過している。職員は、共同生活での人間関係の中で、利用者自らが積極的に動き、それぞれの持つ力を発揮できるよう、調理や食後の後片付け、リビングや玄関の掃除など自主的な動きを待ち見守っている姿勢が見られる。毎月、利用者の健康状態や暮らしぶりをお便りにて家族に送付し、日常からもコミュニケーションを密にとり、家族と共に利用者の望む暮らしを大切に考え、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

お元気な方が多くなり、これまでにないプライバシーや個別対応に苦慮していると話されるが、これまでの経験を活かし、それぞれのステージにあった、ゆったり、和やかに、穏やかに過ごせるよう支援されている。外部研修はできないが内部研修を行っており、開設者からの訓示もあり、法人として個別ケアや虐待防止に取り組む姿勢がうかがえる。コロナ禍で外出支援ができない中、室内で利用者に関わる時間を増やし、昔話や世間話から思いを受け止めようとする姿勢がみられる。やめる人はほとんどおらず、「毎年同じメンバーで」と言われつつも新人職員も入ってきており、職員が定着していることがより良い支援を目指す法人・ホームの表れと感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームで過ごしたいと思える声掛けや、その人らしく生活出来るを理念にかかげ職員間で共有して、実践につなげている。	理念は誰もが目に触れる場所に掲げられており、職員が記録する際に目に触れる場所にも張り付けられている。「ゆったり、一緒に、和やかに、穏やかに」と職員ベースではなく、利用者の流れる時間に合わせる介護を行っている。これは入浴時間を決めないことやその人の特徴を生かした支援の方法などにしっかりと生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の状況から、地域とつながりながら暮らし事は実践出来なかった。	コロナ禍でご近所とは回覧板でのお付き合いになっている。行事等も縮小し、町内の行事も中止になっているため思うようなお付き合いはできていない状況。しかし来訪者には玄関先で対応することや家族の面会は距離をあけること、時間制限を行うなどの対策で地域との付き合いを大切にしようとの姿勢がみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に認知症について、理解して頂ける様に運営委員会で講義を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況、行事、身体拘束防止、コロナウイルスの施設対策等報告し話し合い、意見を頂きサービスの向上に努めている。	令和2年6月と今年3月に対面での運営推進会議を行っている。利用者の出席は控え、家族と役場と職員、10名以上が参加した。コロナ禍での面会制限についてや新規の人の要望をお聞きし、支援の方法について話し合い、支援に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場に事業所の運営と現状報告を行い入居者様の方について、相談を行い助言を頂きサービスケアに取り組んでいる。	役場主催のグループホームの会合等は開催されていないが、必要なことは電話等にて連絡確認できる関係性は崩れていない。こちらの空き情報の提供などはこれまでどおり行っていることもあり、役場との関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束について、話し合い、検討し理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	今年度は内部研修を中心に身体拘束等を考えてきた。ユニット会議や開設者との話し合いから、拘束、虐待、スピーチロック、アンガーマネジメント等についての話がされている。その場で話し合うこともあり、ユニットごと職員間で自分たちのケアを見直す機会にしている。日中の施錠はしていないが、外出を希望する利用者には自由に外出してもらい、安全を確認しながら職員が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の資料をもとに、話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、それぞれが学び理解し取り組んでいる。成年後見人制度を活用し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念、サービス内容、個人情報の取り扱い等の説明を行い、分からない点等の質問に応じて理解して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や電話連絡時にはご家族様が意見や要望が話しやすい様に心掛けている。	面会が自由にできない分、窓越しや時間を区切った面会をしており、家族が来られた際ご要望をお聞きしている。今年度はお便りに写真を多く入れることや個別のコメントを多くし、家族からは喜ばれている。外出機会が少ないが、利用者とは1対1で過ごす時間が多くなり、さりげない日常会話から本人の思いや要望をお聞きしプランに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はミーティングや管理者会議で、職員一人ひとりの意見やアイデアを取り入れて運営に反映させている。	職員とはミーティングで意見が言えるようにしており、個人的には管理者が話ができる時間を作っている。新人職員には管理者が介護方法や利用者とのかわり方で困っている様子をさりげなく聞くことで、わからないことを教えるのではなく、考えてもらえる機会としている。今年度はホーム内での体操の回数を増やしたことやお弁当をとるなど、職員から出てきたアイデアを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員の努力や実績を把握し向上心を持って働けるよう職員の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は力量に応じて役割を分担したり、育成のために研修への参加を促し、職員のスキルアップに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、学習会・親睦会へ参加し交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とご家族様に入居前にホームに見学に来て頂き、相談にて要望や不安なことなど伺い納得されたうえで安心してサービスが利用できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望、困っていることなどを聞き、思いをくみ取り安心して信頼していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めて、状況をふまえたサービスを見極め、入居者様、ご家族様へ可能なかぎり支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の支援の中で状況把握に努め、ご本人の思いを傾聴し、共感できるように心掛け、共に支えあえる関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、お便りにて生活状況を伝えて、入居者様には、職員とご家族の話ができる場をもうけ、共に思いやる気持ちを持てるように心掛けいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で外出はひかえて、なじみの方と電話連絡で話が出来る様に心掛けた。	コロナ禍で、外出もできず、迎える側も躊躇する中、孫からの手紙に応えることや、利用者が他利用者のズボンの裾上げや雑巾縫いをしてもらうなど、室内でできることを考え、実践している。また敷地内の他ユニットとは交流するなどホームの特性が生かされており、できないからしないではなく、できることを探して行う姿勢がみられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が支えあい、仲良く過ごせる様な空間作りに努めた。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も他施設・病院に入所、入院された、ご本人の様子を時折ご家族に伺っている。また、必要に応じて相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりあいの中から入居者様の思いを把握し希望に添える様に務め困難な場合は、寄り添い表情や行動から、意向の把握が出来る様に努めた。	自立した方が多い特性を生かし、浴衣づくりや梅干し漬、畑やミシンがけなど、利用者へ寄り添い話を聞くことでヒントをもらい実践している。話をすることができない方には表情やしぐさで判断しているが、日頃からの深いかかわりでその日の体調もわかるようになってきており、思いや意向の把握に対して常に努力している姿勢がみられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のこれまでの生活・環境・サービスの利用の経過などご家族に聞き、職員間で把握し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントにより、入居者様の様子、身体状態や出来る事などの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の、意向やご家族の要望、職員の気づきや意見を反映して介護計画を作成している。	担当制をひいており、1職員が2~3名担当している。その職員が中心になり、本人、家族の思いを確認したうえで、他職員の意見を集約し、計画作成者や介護支援専門員がプランを作成している。プランは6か月に1回、モニタリングは3か月に1回確認しているが、必要時にはその度に変更もされており、状態や希望に合わせたプランが作成されていることがうかがえる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等をケース記録に記入し情報交換を行い、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族のその時々状況に応じた支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 適切な医療が受けられるように支援している。	入居者様の意向に応じて関係機関と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居者様及びご家族の希望を組んでいる。他のかかりつけ医を希望される場合は、他の医療機関と連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	ホーム医がおり、ほとんどがホーム医を利用しているが、かかりつけ医をそのまま継続利用されている利用者もいる。受診は基本家族が同行するため、情報提供は行っている。コロナ禍を考慮し、眼科などの専門医への受診に行くときは「どこにも寄らずに戻ってきてほしい」と家族に一言添えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者様の状態の変化に気づいたら、看護師に連絡し、相談、指示を仰ぎ適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、電話連絡にて病院内での状態を聞き、ホームでの出来る事等を伝え情報交換し早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、事業所では、出来ることを早い段階からご家族へ相談しご家族との方向性が共有出来る様に取り組んでいる。	法人としては看取りをしていない。しかし最期までこの場所でも希望される本人・ご家族とは何度も話し合い、ホームでできることとできないことを伝えたくて了解を得、主治医とも何度も話し合いを重ね、支援を行っている。最終的に入院を希望された家族もおり、柔軟に対応する姿がみられる。今後看取りについて話し合う必要性を感じていると話される。看取りはしていないが、看取りに関する研修は行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急救命講習を受けていたが、コロナ過により、実施出来なかった。職員は救急に備えた資料を読み把握し、急変時に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	全職員でスムーズに対応が出来る様に努めている。緊急時の支援体制(連絡網)も作成している。	マニュアルを作成し、対応がスムーズにできるよう研修も行っている。4ユニットの職員でホームに近い順番に連絡ができる連絡網も作られている。けがや転倒等は主治医や管理者、開設者への連絡がすぐできるようにされており、離設される人には後ろから見守り、必要時は職員間で連携し、ご本人が満足されたところにホームへの帰宅を促している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力体制にある医療機関との連帯や老人ホームとの支援体制が確保されている。	地域の老人保健施設や病院と連携が図られている。かかりつけ医には連絡するとすぐに対応してくれる関係は構築されており、職員も不安なくケアができています。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	職員間で連携が図れる様に緊急時の連絡網やマニュアルの更新を行っている。	夜勤は各ユニット1名ずつの配置になっている。何かあった場合にはすぐ対応できるよう連絡網を使用し、ホームに近い職員から連絡するなど、必要な人員を確保する手段も持っている。また管理者や開設者にも気兼ねなく連絡ができる関係性は構築されており、職員も不安なく対応することができている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員で理解を深め支援体制の確保に取り組んでいる。(災害時を想定した訓練を実施している。)	コロナ禍であるので、近隣の参加を求めず、法人内で夜間想定で消防とも連携し避難訓練を行っている。各ユニットごとに車にて利用者を避難場所まで運び戻ってくる時間を図り避難経路の確認をするなど、災害対策の意識づけは周知されている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	全職員が避難訓練に参加し、反省点や改善点をあげ、入居者様が個々に合わせた避難が出来る様に話し合いを行っている。	備蓄品は乾パン、飲料水、パウチ食品などリストアップし、賞味期限が切れないように注意している。薬剤情報はファイルにつづっている。それぞれのユニットで整えられているものもあり、共通で使用するのは敷地内で備蓄されている。また、食品や寝具類は常に常備されていることもあり、体制が整備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を尊重しプライベートな部分への配慮を行ったうえで、個々に合わせたケアが出来る様に努めている。	トイレの声かけなどの方が不快にならないよう、周りへも配慮しながらケアが行われている。また今年度は自立した方が多い特性があり、一人一人の尊重とプライバシーの確保には特に敏感になっていると話される。理解できていると言われていても判断が鈍くなっていることもあり、間違った理解や認識によるトラブルを避けるため、個別に話をするなど、ケアの方法も画一的にならないよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を遠慮なく伝えられたり、自己決定が出来る様に職員は寄り添い、ゆったりとした気持ちで接する様に心掛けている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりが自分のペースで思いのままに過ごせる様に支援している。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援している。訪問理容にて、入居者様の好みのカットしていただいたり、入居者様の希望にて職員が髪染をしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を職員間で共有しメニューに取り入れ等をしている。季節の行事に合わせた食事も提供している。後片付けは、入居者様と職員が一緒に行っている。	業者が食材を持ってくる回数を週の半分とし、そのほかは職員が買い物に出かけている。以前は一緒に買い物に出かけることもあったが、今は利用者に料理の希望を聞き、その意見を参考に買い物に出かけている。季節を感じてもらえるよう心がけており、行事食やお弁当などのテイクアウト、お誕生日には本人の希望を叶えるなど、「食べる楽しみが一番だから」と言われ、味だけではなく、見た目にも喜んでもらえるよう取り組む姿がみられる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事量と好みの飲み物を提供して、出来るだけ水分確保に努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でできる方は、口腔ケアのセットの準備と声掛けの支援を行っている。口臭を感じた時は、口腔状態の確認し汚れがあるようならブラッシングの支援をしている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の殆どが自立しており、トイレでの排泄が出来ている。パッド使用のかたのみパッド確認を行っている。	排泄パターンをチェック表で確認し、声かけ等対応している。寝たきりの方でも日中はトイレでの排泄を勧めるなど職員間で協力して自然な排泄の場を提供している。布パンツや紙パンツにこだわらず、家族とも相談し、本人にとって一番良い支援を模索する姿がみとれる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の少ない方には、好みの飲み物を提供して水分量の確保に努めている。又、軽運動の促し等を行い、個々にあった便秘予防に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の入りたいタイミングや状態に合わせて入浴を行っている。浴槽内でリラックスして頂ける様に、色々な香りの入浴剤を入れたりして楽しめるように支援をしている。	週2回の入浴が基本であるが、本人の希望や身体状況に応じて支援している。今は週3回入浴される方も多い。入る順番や入浴剤にも好みがあり、利用者に気分を確認するなど職員主導で支援をしないよう指導されている。入浴拒否の方には無理強いをせず、気分が整うのをこまめに確認しながらタイミングを図っている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	軽運動の促し、趣味活動を通じて生活のリズムを整えられる様に心掛けている。夜間眠れずに起きてくる入居者様には、飲み物を提供し職員と一緒に過ごす時間を作り安心して入眠出来る様に支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服している薬の目的、副作用について理解し、内服時の名前確認を怠らず、誤薬ない様に注意している。又、内服後の状態観察に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握した上でそれぞれの入居者様の出来る事を活かし、役割を持つ事で生きがいを持てるように支援している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過の状況から、外出の支援は実施出来なかった。	人込みに出かけることや買い物などこれまでできていたことができないこともあるが、田園の中に建つホームの環境を生かし、遊歩道を散歩する利用者もおり、気分転換を図ってもらっている。受診時や必要な買い物に出かける際は短時間で済ましてもらうようお願いしている。外出支援はもう少し世の中の情勢を見てから検討していくとの方針であった。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を得てホームでのお小遣いとして、お金をお預かりし、入居者様の必要な物品を購入している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が電話連絡して欲しいと言われた時は、電話をかけている。携帯電話でお話される方もいる。手紙が来て返信のされる際は、職員がポスト入れる支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室等入居者様がいる場所は常に過ごしやすい室温を保っている。又、入居者様と一緒に作った壁掛けや、テーブルには花を置いたりして、居心地良く過ごせる様に支援している。	共有スペースは明るく、過ごしやすい場所になっており、自由にゆったり過ごしていただいている。窓から畑や田んぼが見え、季節を感じる事ができる。外出を控えていることもあり、例年以上に季節感があるように花を生けることや飾り物にも力を注いだと話される。換気や消毒にも努めており、今年度は個室のエアコンとホールのエアコンを換気対応の機種に変更した。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様同士がリビングのソファに座り、ゆったりと話し合う居場所がある。ダイニングには日が差し日光浴が出来る。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に在宅時に使用していた物を持って来て頂き、飾っている。入居者様の好きな小物や写真など飾り、落ち着いて過ごせる様に工夫している。	ホームではダンス2個、ベッド、カーテンが取り付けられており、ご本人の希望に合わせて、フローリングか畳を選ぶこともできる。私物の持ち込みは入居の際ご本人やご家族に説明しており、なじみの物を持ってきてもらえるよう促している。家族の写真や自分の結婚当初のアルバムを持ってこられる人もおり、いすや机、ミシンなどを持ち込まれた人もいる。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下には手すりが付いており、安全に歩行が出来ている。トイレや自室が分からなくなって、しまう入居者様の為に飾り物、矢印や表示をしており、自立した生活が送れる様に支援している。		